

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1991. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 91

日本野鳥の会 埼玉県支部

カモと小鳥たち

武蔵丘陵森林公園

春にはお花見、フィールドアスレチック、夏はプール、秋にはサイクリング、バーベキュー、または年間を通して楽しめる森林浴と、家族連れで、友達どうして森林公園を訪れたことのある人は多いと思います。しかし、ここは埼玉県内有数の探鳥地でもあるのです。

はじめに

森林公園探鳥会は毎年冬に行われています。春から秋にかけても多くの鳥たちが、通過したり繁殖したりしていると思いますが、一般の入場者が多いことと、早朝に入場できないこともあり、冬以外はなかなか探鳥会が実施できないでいます。しかし、それ以上にバードウォッチャーにとって何倍も楽しめる冬の森林公園をここに紹介します。

南口から西田沼

探鳥会では南口集合が多いので、ここでも南口から紹介したいと思います。入場するとすぐに地図が置いてあるので1枚取りましょう。この地図が現在位置を確認する以上に、フィールドノートをつけたり、探鳥プランを立てたりすることに後々役に立ちます。

さて、すぐに右側に“山田城跡”という小高い松林があります。ここが最初のポイントで探鳥会では時間の関係でゆっくり見ることはできませんが、ちょっと中へはいると、ミ

ヤマホオジロやキクイタダキをはじめいろいろな小鳥たちが観察できます。丘の一番高いところはちょっとした広場になっていて、ここでじっとしていても次から次へと小鳥たちが姿を現わすでしょう。

もときた路にもどって歩くと西田沼があります。探鳥会で訪れる沼では2番目にカモが多いところです。まず初心者向けにカルガモとマガモをじっくり観察しましょう。

あざみくぼ沼へ

西田沼を右に迂回しながら歩きます。沼にそった路なので、私達が歩くと、岸辺で休んでいたカモが一斉に逃げ出して行きます。アイガモだけは近づいてきますが？こんな時でも小鳥への注意は忘れないで下さい。カラ類の混群が近づいてきます。

西田沼を越えてしばらく歩くと谷間を道が通っています。その左側の斜面は、下草が刈ってあって落ち葉で被われています。木漏れ日の中に落ち葉が時々跳び上がっている様子があります。きっとツグミの仲間が落ち葉

全国一斉ガンカモ調査結果 (1991年1月15日)

	オンドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	トモエガモ	オカヨシガモ	オナガガモ	ホシハジロ	合計	出現率%
西田沼		202	182	3				1	388	13.9
あざみくぼ沼	1		72						73	2.6
山田大沼南	2	174	357				2	4	544	19.5
山田大沼北		1,020							1,020	36.6
天神沼		392	14						406	14.6
柳谷沼	1	20							21	0.8
小沼		13							13	0.5
分山沼		10	17						27	1.0
栗谷沼			168						168	6.0
長沼	7	4	6	106	3				126	4.5
合計	11	1,835	816	109	3	2	4	6	2,786	
出現率%	0.4	65.9	29.3	3.9	0.1	0.1	0.1	0.2		

森林公園

カモのいる沼MAP



をかき上げているのでしょう。ツグミだけでなく、アカハラ、シロハラ、時にはトラツグミが観察できたこともありました。

さらに歩くと、針葉樹が多くて薄暗い森があります。ここが森林公園でお馴染みのルリビタキのポイントです。筆者が初めてルリビタキを見たのもここです。また、この周辺は大きな木が多いのでアカゲラ、アオゲラが確認されることもありました。

暗い森を抜けると右手にあざみくぼ沼があります。数年前迄は十分の水があり多くのカモが観察でき、またオンドリのポイントでもありました。この比企地方では冬場に溜め池の水を抜いて魚を取るということを行ったそうです。それを再現するイベントを行うために水を抜かれてしまいました。その後、今ではカルガモが数羽みられるだけになってしまいました。

山田大沼へ

疎林地帯を抜けながら山田大沼へ向かいます。途中で何度もカラ類の混群に出会うことでしょう。シジュウカラ、メジロ、コゲラ、ヒガラ、キクイタダキ、エナガ等何でも見られます。

さて、公園内で一番大きい山田大沼を観察します。公園内の半数以上のカモが集まっています。逆光にならない場所を選んでじっくり観察しましょう。南側と中央部のデッキの

上がポイントです。ふきさらしになるので防寒には気を付けて下さい。沼一面マガモとカルガモのようですがじっくり探すと、意外と珍しいカモに出会えます。公園内ではオカヨシガモやハシビロガモをはじめ10種類以上のカモが観察されていますが、そのいずれも必ずこの山田大沼で観察されているのです。アカハシハジロが観察されたこともありました。そして、これらのカモを狙って時折訪れる猛禽の存在も忘れてはならないでしょう。

おわりに

探鳥会では、以上の南口から山田大沼まで歩くことが多く、ここだけのコースでもじっくり歩くととても1日では回り切れなでしょう。森林公園はさらに何倍も広く、この他にも小鳥を観察するなら“秘境北口方面”や100羽以上のオンドリの観察される長沼などまだまだ紹介したいところがたくさんあります。また山田大沼の近くにある展示棟では簡単な自然解説の展示もおこなっているので、是非見学することをおすすめします。

森林公園は、入場料を払うことと、開園時間が定められていることを気にしなければ、冬場の埼玉県内ではトップクラスの探鳥地です。1日で全部回ろうと思わずに、何回も足を運ぶつもりで観察するとよいでしょう。

(諏訪隆久)

地鳴きコーナー

戸隠飯綱高原探鳥会に参加して

渡辺喜八郎（浦和市）

最初の目的地に着く早々、ヒガラの群、アトリの群の出迎えを受け、ハクチョウの一群が隊列整然と頭上高く飛び去るなど、幸先の良いスタート。その後も、旅鳥ムギマキ・マミチャジナイに出会ったり、実り多い一日でした。

翌日は昨日の晴天と打って変わって、夜半からの雨は朝になっても降り止まず、予定は芸術鑑賞に切替って、道中、盛りの紅葉の美しさに歓声を挙げながら、柏原の一茶記念館、栗の名所小布施の岩松院・北斎館を見学、この日も有意義に過ごしました。

この二日間を振り返って、永年堅い舗道を歩いていた私の足が、忘れていた土の道や落ち葉の降り積った林の中の小道を歩くときの靴底を通して伝わってくる心地よい感触を蘇らせてくれ、澄んだ空気、雨上りにも濁ることのない清冽な小川の流れ、自然の偉大な尊さをしみじみ受け止めることが出来ました。

最後になりましたが、この好企画の立案と実施にご尽力下さいました北川・草間お二方そして私達一行を温かく持て成して下さいました奥田旅館様に厚くお礼を申し上げます。



（オオコノハズク・鈴木秀男）

ちりもつもれば

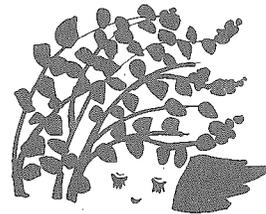
三田長久（狭山市）

みなさんご存じですか？ 総会で決定された埼玉県支部の事業計画には、“役員・リーダーたちの結束を固めるため、懇親会を開く”とあり、役員会、研修会等々の後では必ず飲み会が開かれます。

かく申すわたくしは、エネルギーの過剰消費が自然破壊の主要因であるとの立場から、これらの飲み会にはなるべく参加しないようにしています。飲み会といってもささやかなもので、1000円／人位のものなのですが、月1回のペースで1年間飲み会に参加すれば、12000円になります。

そこで私はこれらの飲み会に参加したつもりで、WWF（世界自然保護基金：年会費5000円）と日本自然保護協会（年会費4000円）に加盟し、トトロのふるさと基金（狭山丘陵の土地を買い取って自然を守るナショナルトラスト運動）に1口3000円を使いました。もっと飲み会があれば、参加したつもり預金をして、立ち木トラスト（1本1500円位でゴルフ場建設予定地内の立ち木を買い、これに名札をつけて切らせないようにするゴルフ場反対運動）に参加して行こうと思っています。

ちりもつもればなんとやら。ほんの少しのことでも、大勢が参加すれば自然保護に役立ちます。少し見直してみませんか、あなたのライフスタイルを！



||||||| 行ってみました |||

村上ひさ子（寄居町）

10月号の『しらこぼと』を案内に、地元の鐘撞堂山に行ってきました。今まで行ったことがなかった林道を歩いてみました。私には、行き止まりにあるというエサ場が全くわかりませんでした。それにつけても、一度、探鳥会に出て（一度と言わず何度でも 編集子）、野鳥との出会い方を教わりたいものだと思います。また、なぜか大正池がほとんど干上



（アマサギ 海老原美夫）

がっているのに、おどろきました。

自宅は、男衾駅の近くです。夜はよくフクロウの声が聞こえます。

さえずりコーナー

||||||| 昆虫採集を論ずるには |||

中村 治（上福岡市）

昆虫採集反対派の意見の多くは、見方が偏っていると思う（賛成派もそうかも知れないが）。

第1に、自然保護の立場だけで論じている点。もし、個人の趣味で生物を私物化してはいけないというなら、釣りや押し花なども反対すべきである。また、殺生がいけないというのなら、ハエや蚊、ゴキブリはどうか。自然保護だけに囚われていると、最終的に行き詰まってしまうだろう。

第2に、バードウォッチャーの目で昆虫を見ている点。昆虫は、鳥類学がかつてはそうだったように、今でも採集・飼育によって生態が明らかにされている。生態が明らかにされてこそ保護もできるのに、採集を否定し、生態を明らかにしないままで良いのだろうか。鳥と虫を同一の視点で考えてはならない。

もうひとつ、環境教育について。観察により自然が理解できるというが、本当だろうか。観察を通して自然や生命の尊さを教えられるのは、すでに生命の概念が明確化された子供に限られる。子供はすべての物に命があると考えているが、6～8才頃になると、生き物にだけ命や意識があるようになる。しかし、生命について理解するには、更に数年かかる。この概念形式には自然の中での遊びが重要なのだが、現在のように自然と触れることの少ない子供では、自然や生命に対する概念の発達が遅れたり、未発達のまま成長してしまうことが多い。カブトムシが電池で動

くと思っている子は、その典型である。このようにまだ概念が形成されてない子供に環境教育を行っても、効果があるとは思えない。

では、どうしたら良いか。それは、子供を自然の中で遊ばせることである。このとき大切なのは、行き過ぎた行為には注意も必要だが、出来る限り子供の好きにさせることである。「虫を獲ってはいけない」「生き物を殺してはいけない」と言っても、子供はなぜいけないのか理解出来ない。それどころか、制限を受けることで、自然への興味を失ってしまう。経験＝殺生と取られては困るが、子供の無邪気さゆえに、残酷なこともするだろう。しかし、そのことも含めた多様な経験により、生命に対する概念が発達していくのである。そして、概念が形成され、論理的思考能力が発達して初めて、生命の尊さや自然への理解が可能となる。子供の知的発達の基礎となる部分も考えなければならない。

以上のような点を踏まえた上で、もっと広い側面から昆虫採集について論じてほしい。



（メスアカムラサキ・登坂久雄）



野鳥情報

ハジロカイツブリ ◇9月22日、戸田市道満で1羽。10月19日、同所で4羽(駒崎政雄)。

◇9月29日、狭山湖で1羽(佐藤方博)。

カンムリカイツブリ ◇10月26日午前9時30分、本庄市の阪東大橋下流の中州近くで1羽。カイツブリ2~3羽と泳いでいた(町田好一郎)。◇10月26日、戸田市道満で2羽(駒崎政雄)。

クロコシジロウミツバメ ◇10月、所沢市内と川口市内で各1羽保護。台風21号に巻き込まれて迷い込んだらしく衰弱していたが回復して放鳥。写真あり(10月16日付読売新聞朝刊などから)。1988年10月川越市大塚新田での記録につく県内2度目の確認記録(野鳥記録委員会)。

アオサギ ◇10月10日、寄居町の荒川で1羽。ハシブトガラスに追われてかわいそう(堀口芳嗣)。

ダイサギ ◇10月10日、寄居町の荒川で1羽。ザリガニを食べていた(堀口芳嗣)。◇10月24日、杉戸町大島新田の調整池で1羽(秋間利夫)。

オシドリ ◇10月11日、鶴ヶ島町高倉の池尻池で82羽。その内、1羽はエクリプス。ここでは、昨年からおシドリが棲みついで銀杏羽からエクリプス。そして現在は、また銀杏羽が美しくなり、自然の秋色に花を添えて、見る人の心を和ませています(宮内滋子)。

カルガモ(白化) ◇9月6日~7日、所沢

市久米の松ヶ丘遊水池で1羽(佐藤方博)。
カルガモ×マガモ ◇9月23日、所沢市久米の松ヶ丘遊水池で交雑個体1羽(佐藤方博、野中康治)。

コガモ ◇9月3日、志木市の柳瀬川、高橋~栄橋間で4羽。今期待望の渡り(中司隆由)。

トモエガモ ◇10月5日、戸田市道満で4羽。10月19日、26日にも1羽(駒崎政雄)。◇10月20日、本庄市の阪東大橋下流で中州のコガモ群れ中にエクリプス1羽。クチバシの付け根の小さな円が、まるで「ごはんつぶ」を2ヶつけているようで、ちょっとユーモラスだった(町田好一郎)。

シマアジ ◇9月7日、戸田市道満で1羽。10月5日には最大数41羽(駒崎政雄)。

ハシビロガモ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の排水機場で2羽(海老原美夫)。

ミサゴ ◇9月23日、戸田市道満で1羽。29日にも1羽(駒崎政雄)。◇9月29日、狭山湖で1羽(佐藤方博)。◇10月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池で1羽(山口博)。◇10月6日午前10時頃、本庄市の阪東大橋下流の中州で2羽。捕食後、カラス5~6羽にからまれ、各々東方、西方に消え去る(町田好一郎)。

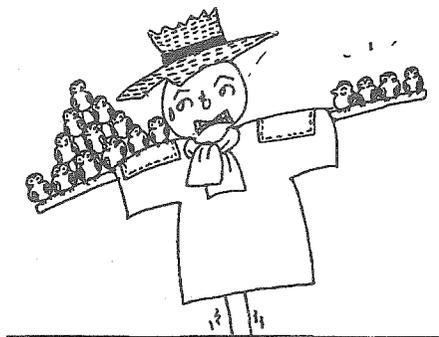
ハチクマ ◇9月29日、戸田市道満でサシバ群れ中に1羽(駒崎政雄)。

オオタカ ◇9月7日、戸田市道満で若鳥1羽、10月26日には成鳥1羽、若鳥1羽(駒崎政雄)。

サシバ ◇9月22日午前8時23分、狭山市沢久保の自宅上空を鳴きながら旋回した後、西方へ飛び去る(三田長久)。◇9月29日児玉郡神川町の金鑽神社近くの岩山展望で13羽(森本國夫)。◇9月29日、戸田市道満で84羽(駒崎政雄)。

ハヤブサ ◇9月29日、児玉郡神川町の金鑽神社近くの岩山展望で1羽(森本國夫)。◇10月19日、戸田市道満で若鳥1羽。26日にも1羽(駒崎政雄)。

チョウゲンボウ ◇10月5日、熊谷市三ヶ尻で今年も2羽巣立ち(山口輝雄)。◇10月24日、杉戸町大島新田で1羽(秋間利夫)。



(押川歳子)

イカルチドリ ◇9月3日、志木市の柳瀬川高橋～栄橋間で1羽。「ピオ」と一声、淡い翼帯を見せながら水面をかすめていった(中司隆由)。

ムナグロ ◇9月5日、深谷市の上武大橋下流で12羽(井上幹男)。

エリマキシギ ◇9月1日、戸田市道満で♂3羽♀1羽。29日にも1羽(駒崎政雄)。

チュウシャクシギ ◇10月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池で4羽(山口 博)。

セイタカシギ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で若鳥30羽(海老原美夫)。

アカエリヒレアシシギ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬の大久保農耕地で若鳥30羽(海老原美夫)。

ユリカモメ ◇9月28日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇9月29日、狭山湖で4羽(佐藤方博)。

ウミネコ ◇10月5日、北川辺町の渡良瀬遊水池で1羽(山口 博)。

ツツドリ ◇9月25日午前9時50分、吹上町元荒川の桜の木で赤色型1羽。羽づくろいを始めたので、ゆっくり観察できた(逸見嶮)。

ヒメアマツバメ ◇9月29日、飯能市の天覧山で数羽(海老原美夫)。

アマツバメ ◇9月12日、本庄市の阪東大橋下流で6羽(井上幹男)。◇9月29日、飯能市の天覧山で数羽(海老原美夫)。◇9月29日、児玉郡神川町の金鑽神社近くの岩山展望で6羽(森本國夫)。

ショウドウツバメ ◇9月22日、戸田市道満で710羽(駒崎政雄)。◇10月13日、狭山市の入間川、広瀬橋上流で10羽程度が水面付近で飛び回っていた(三田長久)。

コシアカツバメ ◇9月23日、戸田市道満で

2羽(駒崎政雄)。◇10月14日、川口市の芝川、さや人道橋付近で1羽。他にツバメ、ショウドウツバメ10数羽。1羽とびぬけて大きかった(名なしのゴンベエさん)。

ノビタキ ◇9月17日、本庄市の阪東大橋下流で3羽(井上幹男)。◇9月22日、戸田市道満で4羽(駒崎政雄)。

ウタツグミ ◇10月16日午前11時頃、川口市道合の民家で猫がくわえてきたところを家人が見つけて保護したが、同日午後3時頃死亡。写真あり(10月20日付け埼玉新聞などから)。国内では1987年12月に横浜で記録されたが、この時の記録写真などではチベットウタツグミとの判別がつかないとの意見もある。県内初の確認記録(野鳥記録委員会)。

コヨシキリ ◇9月22日、戸田市道満で1羽。アソ原でさえずっていた(駒崎政雄)。

キビタキ ◇10月5日、戸田市道満の釣り堀横の林で♀1羽(駒崎政雄)。

エゾビタキ ◇9月22日、児玉郡神川町の金鑽神社近くの岩山展望で4羽(森本國夫)。◇9月29日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。◇10月1日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。

コサメビタキ ◇9月29日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。◇9月29日、児玉郡神川町の金鑽神社近くの岩山展望で1羽(森本國夫)。◇10月1日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。

カケス ◇9月26日、所沢市北秋津で1羽(佐藤方博)。◇9月28日、本庄市の阪東大橋下流で5羽(井上幹男)。10月12日午後4時頃、同所で13羽。台風21号の合間をぬって、雑木林から飛び上がり、パタパタと南へ渡る(町田好一郎)。

ネイチャーフォトコンテスト1991 入選作

ムクドリ (ムクドリ科)

秋から春にかけての夕方、どこからともなく三々五々ムクムクともすごい数のムクドリが集まって来る。まず、宮内庁埼玉鴨場の林の畔に入る前に、その周辺の電線や大木に止まり、全員が揃ったのを見はからうかのよ

うに一斉にザーッというすごい羽音で飛び立ち、夕日を浴び、ひるがえしを繰り返しながら、やがて鴨場の森へ沈む。この万を越すであろうムクドリの群舞の様は見事である。

青沼俊雄(越谷市)

行事あんない



浦和市・見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：12月7日（土）

集合：午前9時 大崎事業所裏の芝生のグラウンド

交通：JR浦和駅西口1番バス乗り場より大崎事業所行き8:18発または東川口駅行き8:26発に乘車、大崎園芸植物園下車

担当：伊藤芳晴、楠見邦博、笠原伸子

見どころ：新しい探鳥コースです。冬鳥たちの姿を探しながら、その名のとおりヘルシーな散歩を楽しみましょう。なお、足元がぬかるんでいるのでご注意ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月8日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:00発または秩父鉄道寄居8:52発に乘車

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、関口善孝、諏訪夕香子、菱沼一充、神沼幸三郎

見どころ：カワウの大群。最近、大麻生にもカワウが現われるようになりました。冷たい流れに浮かぶ黒い群れは、冬本番を告げています。

越生町・越生探鳥会

期日：12月8日（日）

集合：午前9時15分 東武越生線越生駅前

交通：東武東上線川越8:33→坂戸で越生線乗換え、8:49→越生9:13着。集合後バス

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

で現地へ。

担当：海老原美夫、福井恒人

見どころ：山里の日だまりを訪ねて。カラの仲間たちのおしゃべりに、イカルの歌声まで聞こえて来ると、季節を忘れてしまいそう。

北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：12月8日（日）

集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前

担当：中島康夫、松井昭吾、吉原俊雄、五十嵐浩、入山博

見どころ：荒野の猛禽たち。チュウヒ、ノスリ、チョウゲンボウなどが、冬枯れの葦原に登場。もしかしたら、意外な大物も？ ワシタカファンならずとも目が離せない渡良瀬です。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月15日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、田口浩司

見どころ：にぎやかな冬の芝川。この季節、おなじみのカルガモ、コガモ、オナガガモのほか、ちょっと変わったカモ君が訪ねてくることがあります。最近では、バンもよく現れるようです。お楽しみに。

滑川町・森林公園探鳥会

期日：12月15日（日）
集合：午前10時 森林公園南口
交通：東武東上線森林公園駅より森林公園南口行き9:42発バスに乗車、終点下車。
費用：入園料 360円（子供80円）
担当：森本國夫、榎本秀和、内藤義雄、逸見嶮

見どころ：落葉の音にふりむいて……できるだけ、足音をたてずに歩いてみましょう。散り敷いた落葉がかすかな音をたてたら、そこにはきっと、ルリビタキが、シロハラが…

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月21日（土）午後1時～2時ごろ
会場：支部事務局
案内：重要な支部活動のお手伝い、というところ、堅苦しいのですが、実は、みんなでお茶しながら、お話ししながらの気軽な集まりです。買物帰りにでも、ちょっとお寄りください。

野鳥写真クラブ定例会

とき：12月21日（土）午後2時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：クリスマス間近の連休……だけどヒマな方、寂しい方、事務局でスライド鑑賞でもしませんか。寂しい同士集まって、ひととき楽しく過ごしましょう。

年末講演会

期日：12月22日（日）
会場：浦和市立コミュニティーセンター（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道左折して約600m、右側）3階視聴覚室
プログラム：1. スライド映写「埼玉県支部の1年」午後2時～2時30分 恒例の年末スライド映写。今年の主役は、あなたかもしれません。なお、支部活動に関するスライドを披露して下さる方は、前もって事務局にご連絡下さい。
2. 講演「オーストラリア鳥事情」

講師：塚本洋三氏（日本野鳥の会本部専務理事） 午後2時30分～4時30分
華麗な姿、奇妙な習性 — 魅力いっぱいのオーストラリアの鳥たちを、スライドと楽しいお話でご紹介いたします。県内の探鳥会では、まず、絶対にお目にかかれない鳥も、いろいろ登場。乞う、ご期待！

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：12月23日（月・祝）
集合：午前9時10分 西武線西武球場前駅
交通：西武池袋線秋津8:47分→所沢8:50分→西所沢で狭山線に乗換え8:57→西武球場前9:02分着
担当：三田長久、石井幸男、小野光昭、黒田佳子、佐久間博文、杉本秀樹、佐藤芳博

見どころ：100%、80%、60%、20%！降水確率？いいえ、ちがいます。カンムリカイツブリ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサの昨年12月の出現率です。さて、今年は何パーセント？ 冷たい風が吹きます。防寒対策お忘れなく。

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：平成4年1月3日（金）
集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗り場から中野田引返場行き乗車、上野田下車。当日は正月臨時ダイヤで運行されます。
担当：海老原美夫、松井昭吾、楠見邦博

見どころ：ひと味違うお正月。公園周辺の田んぼを、のんびりひとまわり。新鮮な気持ちで眺めると、おなじみの鳥たちも魅力倍增。探鳥会のあとは、新年を祝って乾杯！

伊豆沼探鳥会

期日：平成4年1月11日（土）～12日（日）
ただいま参加者を募集中です。先月号11ページをご覧のうえ、ふるってご応募を。先着順（支部会員優先）ですので、お早めに。

行事報告

9月29日(日) 川口市 差間

人 29人 **天気** 晴時々曇 **鳥** チュウサギ
 コサギ オオタカ コジュケイ キジ シラ
 コバト キジバト ツツドリ アマツバメ
 カワセミ ツバメ イワツバメ キセキレイ
 ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ
 セッカ メジロ カワラヒワ スズメ ムク
 ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24
 種) 台風一過の穏やかな日。通船堀では、久
 しぶりにカワセミが見られ、ススキの穂が白
 く光る野辺では、ノビタキ、ツツドリ、アマ
 ツバメと秋の差間の主役たちが勢ぞろい。大
 崎公園付近では、電柱に止まるシラコバトを
 じっくり観察でき、満足、満足の探鳥会でし
 た。(手塚正義)

9月29日(日) タカの渡り調査

協力した人 荒木恒夫、石井幸男、石松康幸、
 宇賀神若人、海老原教子、海老原美夫、小淵
 健二、金井敦美、金井祐二、草間和子、楠見
 邦博、楠見文子、小林みどり、小林洋一、小
 荷田行男、佐久間博文、鈴木忠雄、関口善孝、
 中島康夫、中島郁夫、福井恒人、福井亘、藤
 野富代、逸見嶮、増尾節子、増尾隆、松井昭
 吾、三田長久、森本國夫、山岸昭治、山口輝
 雄、吉原俊雄、ほか金井ジュニア、天覧山の
 会員約10名(計約43名)晴から曇となり、絶
 好の日和とは言えなかったが、調査は、飯能
 市の天覧山、日高町の高指山、鳩山町～東松
 山市の物見山、寄居町の鐘撞堂山、大滝村の
 三峰山ロープウェイ山頂駅、神川町の岩山展
 望で行われた。調査に参加された皆さん、ご
 苦労さまでした。

10月6日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 33人 **天気** 曇時々雨 **鳥** カワウ ダ
 イサギ コサギ アオサギ カルガモ コガ

モ オナガガモ ミサゴ トビ オオタカ
 ノスリ ハイイロチュウヒ チュウヒ チョ
 ウゲンボウ コジュケイ ダイゼン シラコ
 バト キジバト アマツバメ ヒバリ ショ
 ウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨ
 ドリ モズ コヨシキリ ホオジロ カワラ
 ヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソ
 ガラス ハシブトガラス (33種) 今にも降り
 出しそうな天気にもかかわらず、大勢の参加
 者があった。期待に違わず、ワシ・タカが7
 種見られた。アシ原を低く飛ぶチュウヒ、枯
 れ木に止まるオオタカ、ノスリなどなど、渡
 良瀬ならではのもの。この素晴らしい自然を
 いつまでも残しておく必要がある。参加した
 大勢の方が満足してくれた探鳥会でした。

(中島康夫)

10月10日(木、休) 坂戸市 高麗川

人 8人 **天気** 曇後小雨 **鳥** カイツブリ
 ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ コ
 ジュケイ イソシギ キジバト ヒメアマツ
 バメ カワセミ ツバメ イワツバメ キセ
 キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
 ヨドリ モズ シジウカラ ホオジロ ス
 ズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス
 ハシブトガラス (24種) 今にも雨が降り出し
 そうだ。続け様の台風。今も台風21号が接近
 しているという。高麗川も増水している。け
 れど鳥たちは元気に飛び回っている。私たち
 も鳥たちに負けてはいられない。上空には、
 ヒメアマツバメ、川面ぎりぎりに飛ぶカワセ
 ミ。途中の城山橋下の道は増水のため通れず、
 仕方なく迂回路を行く。いつもの場所でヤマ
 セミの出してくれることを心待ちにしていたが、
 今日ヤマセミはお出かけかな?そのとき、
 アオサギが私たちを見学にやってきた。これ
 で天気が持ち直してくれば鳥たちも多く顔

を見せてくれると思いながら、探鳥会を終了した。
(石井幸男)

10月13日(日) 熊谷市 大麻生
雨のため中止。

10月20日(日) 浦和市 三室地区

人 70人 天気 曇 鳥 カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ スズガモ バン チョウゲンボウ コジュケイ タカブシキ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト ツツドリ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(33種) 週末はいつも雨の日が続いていましたが、久しぶりの天気でしたので、70名というたくさんの参加者が秋の空の下で鳥を楽しみました。芝川では、たくさんのコガモが泳いでいましたが、その中に潜水する元気なカモがいて、探鳥会初めてのスズガモでした。ツツドリが姿を見せ、チョウゲンボウ、カワウ、ユリカモメ、カケスと冬のスターたちが三室の里に戻ってきた一日でした。
(楠見邦博)

10月26~27日(土~日) 長野県戸隠・飯綱高原

人 32人 天気 26日晴、27日雨 鳥 カイツブリ ハクチョウSP カルガモ トビ ハヤブサ チョウゲンボウ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ モズ カワガラス ミソサザイ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス ムシクイSP キクイタダキ ムギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ マヒワ イカル スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(40種) カラマツの落ち葉のじゅうたんを踏みしめながら、晩秋の信州を十二分に味わいました。マミチャジナイなどのツグミ類、カラ類、そして色づいた木々を渡るアトリやマヒワの大群。ハク

チョウの編隊飛行。圧巻は珍鳥ムギマキの出現でした。全員で見たオレンジ色のあの胸は印象的でした。夜の恒例の、新そば粉で打った戸隠そばの食べ放題、地酒の飲み放題。そして山で採ったキノコ汁……。2日目は雨のため、急遽文学探訪バスツアーに変身。ため息の出るほど美しい紅葉の野尻湖畔の小林一茶の記念館や、小布施の葛飾北斎の美術館などを訪ねました。思わぬことで、探鳥と観光の一石二鳥(鳥は40種)のツアーとなり大好評でした。
(北川慎一)

10月29日(日) 川越市 西川越
雨のため中止。

11月3日(日) 富士見市 柳瀬川

人 64人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ チョウゲンボウ タゲリ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(27種) 好天に恵まれ、気持ちのいい探鳥会日和。心配していたタゲリも現われ、数こそいつもの年より少なかったが、全員見られた。ツグミが鳴きながら飛び、チョウゲンボウも現われ、冬の鳥は揃ったというのに、田圃では脱穀の真っ最中。秋の長雨、台風で稲刈りが遅れるんですね。チョット農家の人に遠慮しながらの探鳥会でした。
(藤原寛治)



(押川歳子)

連絡帳

旗と腕章を新調

探鳥会リーダーの腕章が、長年の活躍についてぼろぼろになってしまいました。集合場所を示す旗も、県内各地で探鳥会が開かれるようになり、数が足りなくなってきましたので、役員会で相談して、旗と腕章を新調しました。役員リーダー全員がひとつずつ持てるように十分な数だけ用意し、すでに10月末ごろの探鳥会から登場しています。新しい旗と腕章を目印にお集まりください。

リーダー研修会『野鳥』誌に紹介

毎年欠かさずリーダー研修会を開催しているのは、埼玉県支部だけです。その意味でも、当支部のリーダー研修会は注目を集めています。本年9月1日(日)に開催された研修会について、本部『野鳥』誌編集室から紹介原稿の依頼があり、11月号に2ページにわたって掲載されました。

会員数の一時的減少

毎月増え続ける一方だった会員数が、前号では珍しく前月比45人減になりました。昨年8月号でご紹介した一括入会のザ・ステイツ所沢アルカディアンの皆さんが2年目の会費切替の時期を迎えたからです。全105戸のところ入居者94人、そのうち2年目の会費を更新したのは21人でした。入居したときには自動的に会員になっていた人たちのうち、21人もの人たちが今度は自発的に更新してくれたのは、考えていた以上の高率だったと、役員会での役員たちの感想でした。

県の写真コンクール

当支部のコンテスト入選作は、パネル展、表紙写真、埼玉新聞での連載など、多方面で活躍しています。

埼玉県自然保護課でも、「野生の生きもの写真コンクール」応募作品を募集中。
募集期間 12月2日から1月31日まで

テーマ 県内に生息する野生生物の生態
規格・注意 カラー六ツ切 白黒四ツ切。作品裏面に被写体名、撮影日時・場所、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記。1人何点でも可。

応募資格 県内在住または県内通勤通学者
送付先・問合せ先 〒336 浦和市高砂3-15-1埼玉県環境部自然保護課(048-824-2111内線2424) 一番良い写真は支部コンテストに。

2番目の写真を県のコンクールにどうぞ。

12月の土曜日当番(2時~6時)

7日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)

14日 北川慎一 金井祐二

21日 袋づめの会(1時から)

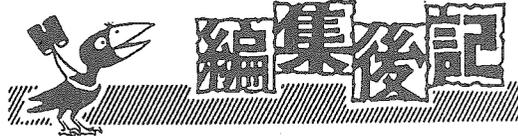
28日 事務局休み

会員数は

11月1日現在 1,709人です

活動報告

- 10月5日 普及部会議。
- 10月11日 コンテスト入選作連載原稿埼玉新聞社に。15日から掲載。
- 10月12日 編集会議(11月号編集作業など)。
- 10月19日 役員会議(司会・菱沼一充、パネル展ボランティア・1~3月行事など)。
- 10月25日 パネル展につきアズと最終打ち合わせ。



「地鳴きコーナー」三田さんの「ちりもつもれば……」には感心した。なるほどなるほどその通りだ。確かに自然保護を論じるには、それぞれのライフスタイルそのものから見直さなければならない。

感心しながら今月も何とか編集作業が終わり、ああ疲れた、さていっぱいやろうか。
(海老原美夫)

『しらこぼと』1991年12月号(第91号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)